

事業名：競馬場通り線 道路拡幅事業

所属名 高崎土木事務所

区分  
道路(市街地)

1. 事業概要

(都)競馬場通り線は、2020年春に開所した「Gメッセ群馬」へのアクセス道路である。  
当該道路は、施設外周の緑道と隣接しており、特に道路北側歩道は緑道と一体利用されることが想定される。このことから、道路(歩道)利用者・施設緑道(園路)利用者どちらも快適に利用できる空間整備が必要であり、管理者間を跨いだ一体的なデザインとすることが求められる。  
※施設緑道の整備と管理主体は産業経済部。



2. 現場の特徴【ステップ1】

- ・高崎駅東口地区は、企業の進出や道路整備などにより新たな商業・業務地として発展を続けている地域である。
- ・道路整備箇所北側は「Gメッセ群馬」と隣接している。また、南側は、住宅街となっている。
- ・歩道と施設外周緑道が隣接している。

3. 事業目的【ステップ2】

- ①現場から何をさせるのか  
道路・緑道利用者の賑わい、「Gメッセ群馬」のイベントの盛り上がり感
- ②どこから現場自体を見るのか  
利用者の目線(ドライバー、歩行者・自転車(道路利用者・緑道利用者))、休憩スペース
- ③目指すべき目標像  
施設緑道と道路北側歩道を一体的に利用できるよう、横断構成を工夫するとともに、統一された多種多様な植栽を道路と緑道に植栽することで一体的で開放的な空間を創出する。

4. 専門家の助言の有無【ステップ4】 (有・無)

- ・来場者だけでなく、日常利用者のことも考慮した景観デザインとすべき。使われ方を考慮したデザインを行わないと、閑散とした空間となってしまう。
- ・地域性や場所性を活かしたデザイン(例えば植栽を施設と一体として考える)をすれば、対外的にアピール出来る。
- ・空間的な目線でデザインすること。(平面図に図柄を落とすことがデザインではない。)

5. 配慮内容【ステップ3】 (完成) (整備前後の写真やコメント等)、計画済・計画中 (想定される内容) >

・道路北側歩道と施設緑道を一体空間として利用できるように横断構成とした。

・樹種・植栽配置を工夫し、維持管理に配慮。

・道路植樹帯と施設緑道の植栽を同様・複数種とすることで一体感を感じられる空間とする。

・複数種の植栽で歩道・緑道利用者をおもてなし。  
・群馬の植生を活かした樹種を選定し、ぐんまらしさを表現。  
・四季折々に花が咲くよう樹種を選定。  
・雑草が生えても見栄えの劣化を防止。

・植栽の美しさを際立たせるため、あえて無彩色の舗装材料を選定

・歩道、緑道両方から利用できるベンチを施設側に配置。  
・あえて背もたれを設けず、どちら側からも座りやすいように配慮。  
・座面は、木のぬくもりがあり、耐候性を高めた加工木材を使用。

・緑道・歩道の間にも植栽を配置。  
・堅い物(舗装)の中に潤いを持たせ、閑散とした雰囲気とならないよう工夫。  
・管理界をゆるやかに明示。

・既存バス停付近には、ベンチに加え上屋を配置。  
・バスの待合や休憩スペースとして利用できる場所を設けた。

シャリンバイ  
セイヨウイナンテン  
ヒラドツツジ  
カンパアジサイ  
フリスラン  
ツルマサキ

「Gメッセ群馬」

サツキツツジ  
シャリンバイ  
ヒラドツツジ  
シモツク  
ミドリツツジ  
フリスラン  
ハツユキカヅラ

ヒラドツツジ  
サツキツツジ  
セイヨウイナンテン  
アズミ  
ハツユキカヅラ

・複数種の植栽で歩道・緑道利用者をおもてなし。  
・群馬の植生を活かした樹種を選定し、ぐんまらしさを表現。  
・四季折々に花が咲くよう樹種を選定。  
・雑草が生えても見栄えの劣化を防止。